



今回は「職人」について少し書かせていただいたと思います。自分は新卒で旅行会社のサラリーマンを約3年、建設会社を約1年勤めさせていただいた後に父の下で5年間大工として修行をさせていただきました。職人修業当時、サービス業でサラリーマンを4年経験してまた自分にとって、職人の世界は「???」だらけです。



まず、皆コミュニケーションを取ろうとしないというか、うまくない業界というところ。そして「作ってやってくれるんだ」というわけのわからない高飛車なところ。さらには、御客様に待ってもらっていても忙しいからしょうがない開き直り。もちろん、これら全ての事柄は、一部の職人さんだけに限って、ちょっと大げな表現ですが、職人さん一人一人がはんとなくそんな感じに見えてしまうから、不思議です。



今から、17年程前の事ですから、建築の業界もまだまだ仕事に困るようなこともなく、皆、忙しい日々だったような気がします。しかし、正直、「建築業でも御客様相手のサービス業界と考えると、こんなとはありえない事」と当時は、感じていたものです。こんな事では、いつかおかしくなるだろうし、平成バブルの悪影響とはいえ、何とかしなければいけないという思いがすごくありました。



今年の夏父の実家の岩手へ行ってきましたが、山奥の実家から、遠野市という3,40キロほど離れた大工の丁稚奉公先から、夏冬は自転車で山道を行き来りして、その道を車で通りながら、当時の弟子達の待遇などを聞き、昔の人の大変な環境をあらためて凄いなと思ったと思います。手に職をつけるのに、昔の人は大変なおもいで苦勞してました。我々の世代は、手に職をつけたとしても、環境は更によい、道具は進化し、仕事には困らない。そんな条件が自分も含めて、「今の職人」をつくらせてきたのかも知れません。



正直、当時感じた職人の世界「???」は、まだまだ全てが私域されているとは思いません。自分も含めて、サービス業者としての「職人」となるために、皆で一丸団結し、色々とサービスに対して、努力、研究していかなくてはならない。発展途上だと思っております。これから「建築業は、御客様相手の素晴らしいサービス業」と捉え、職人さん達と共に、さらに「御客様の現場」を磨いていきたいと思います。それが、御客様、協力業者皆の幸せになると信じています。ありがとうございました。

